

目 次

■ HIYO シラバス	3
■ 教育課程	3
■ 教育目標	4
■ 評価について	5
◇ 国語科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	6
◇ 地理歴史公民科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	9
◇ 数学科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	15
◇ 理科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	18
◇ 保健体育科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	21
◇ 英語科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	24
◇ 家庭科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	29
◇ 情報科 教科の内容/学習の仕方/各科目の説明	31

Hiyo シラバス

「シラバス」とは、カリキュラムを構成する各教科・科目などについて、目標、内容、教材、学習指導計画、評価の概要などを記載した計画書のことをいいます。1年間の授業を通じ、日吉ヶ丘高等学校でみなさんに理解してほしい事柄、身につけてほしい見方、考え方などが到達目標として具体的に示されています。

全員が「グローバルコミュニケーションコース」に所属しますので、1年次は全員同じ科目を履修します。2年次からはそれぞれの希望に基づいて文理別の専攻を選択し、「世界をつなぐ越境者」としての進路実現を目指します。

教育課程

1年次:33単位		*は学校設定科目																																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33		
グローバルコミュニケーションコース (Global Communication Course)	現代の国語																																			
	言語文化																																			
	地理総合																																			
	歴史総合																																			
	数学 I																																			
	数学 A																																			
	化学基礎																																			
	生物基礎																																			
	体育																																			
	保健																																			
	英語コミュニケーション I																																			
	論理・表現 I																																			
	*PSα																																			
	家庭基礎																																			
	情報 I																																			
	総合的な探究の時間																																			
	HR																																			
		PSα: Presentation Skills α																																		
2年次: 人文32~34単位 自然34単位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
グローバルコミュニケーションコース (Global Communication Course)	人文社会科学専攻 (Humanities)																																			
	自然科学専攻 (Science)																																			
	論理国語																																			
	古典探究																																			
	公共																																			
	数学 II																																			
	数学 B																																			
	物理基礎 / 地学基礎																																			
	体育																																			
	保健																																			
	芸術 I (音楽・工書)																																			
	英語コミュニケーション II																																			
	論理・表現 II																																			
	文学国語																																			
	世界史探究																																			
	日本史探究																																			
	化学																																			
	生物 / 物理																																			
	総合的な探究の時間																																			
	HR																																			
	自由履修																																			
	*英会話α / *英語演習α / *数学演習α																																			
	*文学国語基礎																																			
	数学 B																																			
		ASα: Academic Skills α PSβ: Presentation Skills β																																		
3年次:31~33単位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33		
グローバルコミュニケーションコース (Global Communication Course)	人文社会科学専攻 1 (Humanities1)																																			
	人文社会科学専攻 2 (Humanities2)																																			
	自然科学専攻 (Science)																																			
	論理国語																																			
	古典探究																																			
	体育																																			
	英語コミュニケーション III																																			
	論理・表現 III																																			
	文学国語																																			
	政治・経済 / 倫理																																			
	世界史探究 / 日本史探究 / 地理探究																																			
	*国語演習α																																			
	地理探究(4単位) / 政治・経済 / *地歴演習 / *公民演習																																			
	*数学演習γ																																			
	数学 C																																			
	生物 / 物理																																			
	*理科演習 / *化学演習																																			
	総合的な探究の時間																																			
	HR																																			
	*英語演習β / *数学演習γ(4)(23-24と合わせて履修) / *数学演習S / *国語演習K																																			
	*英語演習β / *数学演習S / *国語演習K																																			
	*英語演習β / *数学演習S / *国語演習K / 地理探究(4)(15-16と合わせて履修) / *公民演習																																			
		ASβ: Academic Skills β PSγ: Presentation Skills γ																																		

同じ名称の科目は重複履修不可
PSγ: Presentation Skills γ 「公共演習」と「公民演習」は重複履修不可
第2外国語はスペイン語、フランス語、ハンガール、中国語の中から1つ選択

■ 教育目標

自 律

自己理解を深め、自らの言動に責任を持ち、変化の激しい社会を柔軟かつ主体的に生き抜く力を培う。

協 働

多様な価値観や人権を尊重し、他者との対話を通して社会に貢献していく力を養う。

創 造

幅広い知識や教養、論理的思考力を基盤に、探究の意欲を持ち続け、新たな価値を創出する力を育む。

上記の教育目標をもとに、日吉ヶ丘高校は以下のような「育てたい生徒像」を目標に教育活動を行います。

世界をつなぐ越境者

～Beyond the hill today, Beyond yourself tomorrow～

日吉ヶ丘高校の生徒のみなさんの目標にしてほしい「世界をつなぐ越境者」とは、「自分の壁やまわりのさまざまな境を越えて挑戦し、いろいろな人々とつながり、自分の世界を広げ、新しい価値を求める」人物のことです。「世界をつなぐ越境者」に近づくため、日吉ヶ丘高校では7つの力をHIYOSevenとして設定し、すべての教育活動でその力を意識した活動を行います。

■ HIYOSeven

俯瞰力

広い視野で物事を見たり、客観的に物事の全体像を捉えたりする力

適応力

相手を尊重し思いやり、置かれた状況の中で柔軟に対応したりする力

受信力

情報を正確に受け止め、相手の真意や感情、書かれたものの内容を正確に理解する力

発信力

相手に「伝わる」ように自分の考えや情報を書いたり、話したり、表現したりする力

思考力

物事を論理的に、批判的に、創造的に考える力

挑戦力

失敗や困難を恐れず、主体的に粘り強く物事に取り組む力

〇〇力

3年間の高校生活を通して、自分の強みとなるような個々でつけたい力



■ 評価

本校では上記の目標の下、全科目おおむね以下の観点で評価します。

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得。 習得した知識や技能を既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしている。 習得した知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を用いて「世界をつなぐ越境者」の意識を持ち、主体的によりよい社会を実現するために挑戦し、発信しようとしている。

教科の目標

授業を通じて、国語を的確に理解し、表現する能力を育成し、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高めること

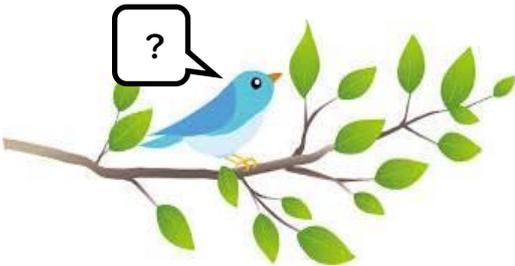
教科の内容

1年次では「現代の国語」と「言語文化」の2つの科目を学びます。「現代の国語」では「読むこと」「書くこと」「話すこと」を習慣化していきましょう。また「言語文化」で学ぶ古典については、最初が肝心です。現代語との違いを考えながら、古典作品を味わいましょう。2年次からは「論理国語」「古典探究」「文学国語」と科目が細分化され、より専門性の高い授業となります。3年次ではそれらに「国語演習」等の選択教科が加わります。

学習の仕方

現代の国語 — ①論理的な文章を読む！ ②様々な問題について意見を述べ合う！

Q. 論理的な文章で、筆者が何についてどう述べているかを正確につかむには？



A. 枝葉にあたる部分と根幹にあたる部分（テーマ）とを見分けていく作業が必要です。そして、テーマが他の表現に言い換えられている箇所や、テーマを説得する根拠になっている箇所をみつけて、=や→などの記号を付けていく練習が有効です。

Q. 相手に自分の考えが伝わるよう意見を述べるには？

A. 相手に自分の考えが伝わるような道筋を考えましょう。論理の飛躍をしないことや納得してもらえる具体例を挙げること、相手の反論を想定することなどが大切になります。

言語文化 — ①文学的な文章 ②古文 ③漢文

Q. 文学的な文章、小説の読み方は？

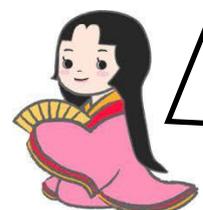
A. 登場人物の心理の変化を追うことが大切です。そして、自然や出来事など、その人を取り巻く環境が、その人の心理にどのような影響を与えているかをつかみましょう。

Q. 古文の読み方は？

A. 現代とは違う文法の知識をもとに、『枕草子』や『伊勢物語』など多くの古文を読みます。そして、その中から、昔も今も変わらない点（例えば、喜んだり悲しんだりする人の心の動き）や、昔と今とで大いに違う点（例えば、自然との付き合い方など現代ではずいぶん希薄になってきていますね）を発見することによって、古文の面白さを味わってください。

Q. 漢文の読み方は？

A. レ点や一・二点、そして返読文字などの訓読のきまりを学ぶと、人間という集団の中で生きる知恵や、逆に人間の世界からのがれて自然と一体化することを述べた含蓄のあるフレーズに出会うことができますよ！



「故（ふる）きを温（たず）ねて、新しきを知る！」

年次	科 目	単位数
1	現代の国語	2
科目の目標・内容	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
履修条件	なし	
使用教材	「高等学校 現代の国語」「現代文キーワード読解」「豊かな語彙力をはぐくむ新しい常用漢字」 「新訂版 常用国語便覧」	
教科からのアドバイス	国語力はあなたの能力を構成する大きな要素です！日本語を楽しみましょう！	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査・授業内考査	○	○	
パフォーマンス課題	○	○	○
小テスト	○		
振り返りシート			○
観点の重み付け	30%	40%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<ul style="list-style-type: none"> ● 話し言葉の技術 ● 対比の構造 ● 書き言葉の技術 1 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ● 論理とレトリック ● 書き言葉の技術 2 ● 言語技術の実践 ● 具体と抽象 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ● 視野を広げる 授業内考査

年次	科目	単位数
1	言語文化	2
科目の目標・内容	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
履修条件	なし	
使用教材	「新編 言語文化」「新訂版 常用国語便覧」「やさしくくわしい古典文法」「やさしくくわしい古典文法ノート」 「基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版 チェックノート基本編」「重要古文単語 315 四訂版」	
教科からのアドバイス	長い歴史の中で培われてきた「ことば」について、じっくり考えてみませんか？	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
パフォーマンス課題	○	○	○
小テスト	○		○
振り返りシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	●古文の世界を楽しむ ●現代にも生きる教え① <u>中間考査</u> ●現代にも生きる教え② ●日本語の中に生きる漢文 <u>期末考査</u>	●故事と成語 ●昔と変わらない人の心① <u>中間考査</u> ●受け継がれる古典 ●昔と変わらない人の心② <u>期末考査</u>	●戦乱下の人間像 <u>年度末考査</u>

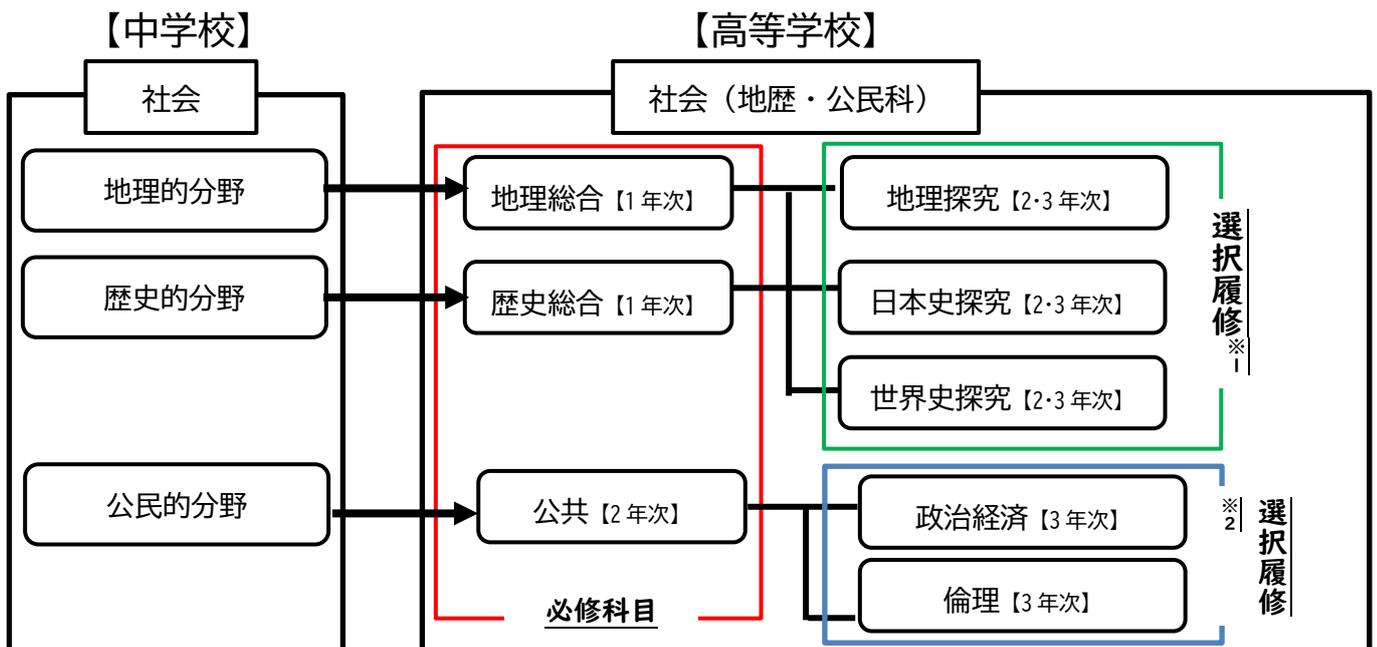
社会科（地理歴史科・公民科）

教科の目標

社会科の各科目の学習を通じ、それぞれの科目の特性を生かしながら、学習意欲を高め、社会への関心を持ち良識ある主権者としての必要な能力と態度を養うことを目標とします。

教科の内容

中学校までに学んできた社会科と高校で学ぶ社会科（地歴・公民科）との間には、根本的な考え方に違いがある訳ではありません。より深く学ぶために科目が細分化します。



※1…文系は2年次に3科目のうちから1科目選択(2単位)し、3年次も継続(3単位)で履修。

理系は3年次に地理探究(自由履修含め4単位)と政治経済(2単位)と地歴演習(2単位)と公共演習(2単位)との選択。

※2…文系は2科目のうちから3年次に1科目選択して履修。

理系は政治経済(2単位)と地理探究(自由履修含め4単位)と地歴演習(2単位)と公共演習(2単位)の選択。

※文系は3年次で探究科目と合わせて、地理演習・日本史演習・世界史演習・公民演習を選択履修(2単位)。

(いずれも選択せず、数学演習βも選択可能)

社会科の履修は少し複雑ですが、なによりも「[社会科目を通してどんなことを勉強したいのか?](#)」や[進学希望先を早い段階で検討](#)し、1年次生のうちから履修のイメージを広げておきましょう!

学習の仕方

社会科の学習に限りませんが、「日々の授業を大切に」し、「予習と復習を徹底」しましょう。そのためには…

- ① 教科書と資料集を活用して、授業で学んだことはその日のうちにしっかり復習しましょう。
重要用語は、丸暗記ではなくその意味や背景を理解すること。分からないことはそのままにしないこと！
- ② 社会科の学習を進めるときは、特に「5W1H」を意識的に理解し、物事のつながりを意識しましょう。
when(いつ)→ 年代・時代・世紀、where(どこで)→ 場所(都市・地域・国など)、
who(だれが)→ 人名、what(何を)→ 事件・出来事、why(なぜ)→ ものが起こった理由
how(どのように)→ 出来事のつながりや時代の流れ、事象が起こるメカニズム
- ③ 定期的に問題を解くことで試験に慣れたり、自分から積極的に調べ学習をおこなって自分の理解が不足しているところを補ったりして、繰り返し内容の理解を深めるようにしましょう。
- ④ 新聞やニュースなどを注視し、常に社会に対する関心を持ち、真実を見抜く力を身につけましょう。

年次	科 目	単位数
1	歴史総合	2
科目の目標・内容	<p>中学校社会までの学習をふまえて、近現代(18世紀)以降の世界とそのなかの日本の歴史の変化を学習する科目です。</p> <p>身近な諸事象から日本と世界との関わりを意識することによって近現代の歴史を理解し、現代の諸課題を追究、解決するための姿勢・手法を学びます。</p> <p>また、様々な史資料を取扱い、出来事の意味・時期・背景・流れ・比較・つながりなどを多角的に考察することによって「なぜ、その出来事が起こったのか」を効果的に調べまとめる技能を身に付けます。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	高等学校 現代の歴史総合(山川出版社), 新詳 歴史総合(浜島書店)	
教科からのアドバイス	現代との結びつきや、世界と日本のつながりを意識して学習に取り組んでください。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内テスト	○	○	
授業内作品(レポート等)	○	○	○
振り返りシート			○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

◆年間授業予定◆

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>■歴史の扉</p> <p>－歴史と私たち</p> <p>－歴史の特質と資料</p> <p>■近代化と私たち</p> <p>－近代化への問い</p> <p>第1章</p> <p>結びつく世界と日本の開国</p> <p>① 18世紀の東アジアにおける社会と経済</p> <p>② 貿易が結んだ世界と日本</p> <p>③ 産業革命</p> <p>④ 中国の開港と日本の開国</p> <p>第2章</p> <p>国民国家と明治維新</p> <p>① 市民革命</p> <p>② 国民国家とナショナリズム</p> <p>③ 明治維新</p> <p>④ 日本の産業革命</p> <p>⑤ 帝国主義</p> <p>⑥ 変容する東アジアの国際秩序</p> <p>⑦ 日露戦争と東アジアの変動</p> <p>－近代化と現代的な諸課題</p> <p>(まとめ)</p>	<p>■国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>－国際秩序や大衆化への問い</p> <p>第3章</p> <p>総力戦と社会運動</p> <p>① 第一次世界大戦の展開</p> <p>② ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭</p> <p>③ 世界経済の変容と日本</p> <p>④ アジアのナショナリズム</p> <p>⑤ 大衆の政治参加</p> <p>⑥ 消費社会と大衆文化</p> <p>第4章</p> <p>経済危機と第二次世界大戦</p> <p>① 世界恐慌の時代</p> <p>② ファシズムの伸長と共産主義</p> <p>③ 日中戦争への道</p> <p>④ 第二次世界大戦の展開</p> <p>⑤ 第二次世界大戦下の社会</p> <p>⑥ 国際連合と国際経済体制</p> <p>⑦ 占領と戦後改革</p> <p>⑧ 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向</p> <p>⑨ 日本と独立と日米安全保障条約</p> <p>－国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p> <p>(まとめ)</p>	<p>■グローバル化と私たち</p> <p>－グローバル化への問い</p> <p>第5章</p> <p>冷戦と世界</p> <p>① 冷戦下の地域紛争と脱植民地化</p> <p>② 東西両陣営の動向と1960年代の社会</p> <p>③ 軍拡競争から緊張緩和へ</p> <p>④ 地域連携の形成と展開</p> <p>⑤ 計画経済とその波及</p> <p>⑥ 日本の高度経済成長</p> <p>⑦ アジアのなかの戦後日本</p> <p>第6章</p> <p>世界秩序の変容と日本</p> <p>① 石油危機</p> <p>② アジア諸地域の経済発展</p> <p>③ 市場開放と経済の自由化</p> <p>④ 情報技術革命とグローバリゼーション</p> <p>⑤ 冷戦の終結とソ連の崩壊</p> <p>⑥ 現代の東アジア</p> <p>⑦ 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化</p> <p>⑧ 地域統合の拡大と変容</p> <p>⑨ 地域紛争と国際社会</p> <p>⑩ 現代と私たち</p> <p>－現代的な諸課題の形成と展望(まとめ)[探究活動]</p>

年次	科 目	単位数
1	地理総合	2
科目の目標・内容	<p>中学校社会までの学習をふまえて、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目です。</p> <p>私たちが住む日本には、少子高齢化や外国人労働者の流入などの社会的な問題が存在しています。昨今では大規模災害に対する対策なども大きな社会問題の一つです。その他、地球環境問題や資源・エネルギー問題、食料問題など地球的な課題も存在しています。これから先の時代を生きていくためには、日本にある課題だけでなく、地球規模で起こる課題にも立ち向かっていく力が必要です。</p> <p>地理総合では、地図や GIS(詳しくは授業で!)の活用などによって情報を収集するための地理的技能や、地球の自然環境をはじめとする地理的な知識を身につけます。その上で位置や空間的な広がり(なぜその場所でそのように起こるのか?ほかの場所では?など)に着目して社会的事象を捉え、国や地域などの様々な枠組みの中で、人間の営みと関連付けて理解・考察する力を身につけます。そうすることで、日本や世界で起こる様々な課題に地理的な視点から考えることができるようになります。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	高校生の地理総合(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院)、最新地理図表 GEO(第一学習社)	
教科からのアドバイス	実は世界で起こる様々なことは、地理を知っていると分かっちゃうことがたくさんあります。地図読むだけが地理じゃない!	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内小テスト(必要に応じて実施)	○		
授業内課題(ワークシート・レポート等)	○	○	○
レポート課題(必要に応じて実施)		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

◆年間授業予定◆

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界</p> <p>第1章 地図と地理情報システムと現代世界</p> <p>1節 地球儀と地図</p> <p>2節 地図と地理情報システム</p> <p>第2章 結び付きを深める現代世界</p> <p>1節 現代世界の国家と領域</p> <p>2節 地図から見る国内や国家間の結びつき</p> <p>2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>1節 世界の地形と人々の生活</p>	<p>2部 国際理解と国際協力</p> <p>第1章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>2節 世界の気候と人々の生活</p> <p>3節 世界の産業と人々の生活</p> <p>4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活</p> <p>5節 多様な生活文化と地理的環境</p> <p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節 人口問題</p> <p>2節 食糧問題</p> <p>3節 都市・居住問題</p>	<p>3部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災</p> <p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p>

※授業の大きなテーマとして取り上げる単元を列举しています。

数 学 科

教科の目標

数学における基本的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。また、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

教科の内容



中学校までの数学と高校で学ぶ数学との間には、根本的な考え方に違いはありません。

(1) 授業の進み具合が速く、内容も豊富で多岐

(2) 論理性が要求され、説明する力や計算力も必要

といったところが相違点です。

高校で学ぶ数学は、系統的に組み立てられて、理路整然とした理論体系をなしており、学問としての数学の基本となります。

1年次には、「数学Ⅰ」「数学A」を学びます。多くは中学校で学んできた事柄を基礎にして発展させたもので高校数学の基本になっています。3年間の学習を左右する大切なものです。

2年次には、より発展的な内容の「数学Ⅱ」「数学B」を学びます。

3年次には、理系の人にはさらに、進学及び進学後に必要な基礎知識となる「数学Ⅲ」「数学C」を学びます。また2・3年次には、受験で必要な学力を伸ばすため、「数学演習」という科目が「 α 」「 β 」「 γ 」の3種類と「S」の1種類設定されています。積極的に選択をして力をつけてください。

学習の仕方

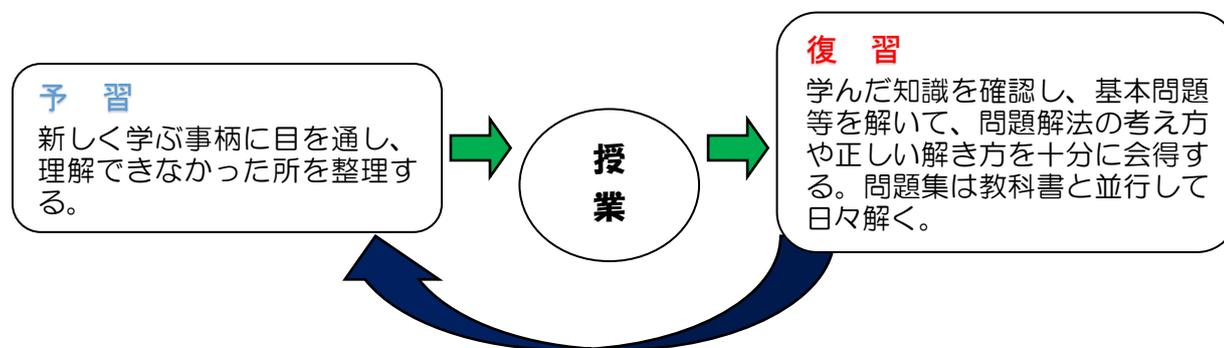
「日々の授業を大切に」することと、「予習と復習を徹底」することが何より重要です。特に数学に強くなるには、基礎になっている事柄に対する考え方や処理の力を養うのが一番大切で、教科書の内容を完全にマスターすることが必要です。具体的な学習の進め方としては、

(1) 定義、定理、公式などのエッセンスを整理してまとめる。

(2) 定義、定理、公式などをそのまま使えば解ける簡単な問題で基礎事項を確認する。

(3) 基本となる問題を実際に自分で解く。

(4) 基本問題よりやや程度の高い問題を、じっくりと考えて解く。 ということです。



年次	科 目	単位数
1	数学 I	3
科目の目標・内容	<p>中学校までの学習内容をさらに発展させた内容を扱います。 「数と式」では式の処理能力を高め、より高度な計算能力を身につけます。さらに、数そのものについての理解を深めることも目標とします。 「集合と命題」では、計算処理ではない数学を体感し、集合という新たな概念を習得します。 「2次関数」では、関数の考え方を学び、さらに2次関数の値やグラフについて深く考察していきます。また2次方程式とグラフを関連させて理解できるようになることが目標です。 「三角比」では、三角形の1つの内角と辺の比の関係を出発点として、図形に関する性質を深く学んでいきます。より多面的に図形を分析できるようになります。 「データの分析」では、中学校で学習して統計の内容をさらに発展させ、さまざまなデータをどのように処理・分析すればよいかについて学びます。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	高等学校 数学 I (教科書) 4プロセス数学 I + A (問題集)	
教科からのアドバイス	「なぜ？」と仕組みを考える姿勢を大切にしながら受講して下さい。批評的思考力を高め、論理的に物事を考える力を身につけ楽しみましょう。日々の授業で皆さんから生まれる疑問を楽しみにしています。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
確認テスト・単元テスト	○	○	
提出物		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	「数と式」 「集合と命題」 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。	「2次関数」 「三角比」 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。	「データの分析」 ※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。

年次	科 目	単位数
1	数学A	2
科目の目標・内容	<p>中学校までの学習内容をさらに発展させた内容を扱います。</p> <p>「場合の数と確率」では、数学 I で学習した集合について、さらに理解を深めます。そして場合の数についても考え、すべての場合を効率よく、もれなく数える手段を身につけます。またその考え方をもとにさまざまな事象の確率を求めることが出来るようになります。</p> <p>「図形の性質」では三角形や円などに関する定理について学習します。複数の定理を用いて、さまざまな図形を考察していきます。また、空間図形にも平面の考え方を利用し、性質を考察していきます。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	高等学校 数学A(教科書) 4プロセス数学 I + A(問題集)	
教科からのアドバイス	「なぜ？」と仕組みを考える姿勢を大切にしながら受講して下さい。批評的思考力を高め、論理的に物事を考える力を身につけ楽しみましょう。日々の授業で皆さんから生まれる疑問を楽しみにしています。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
確認テスト・単元テスト	○	○	
提出物		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

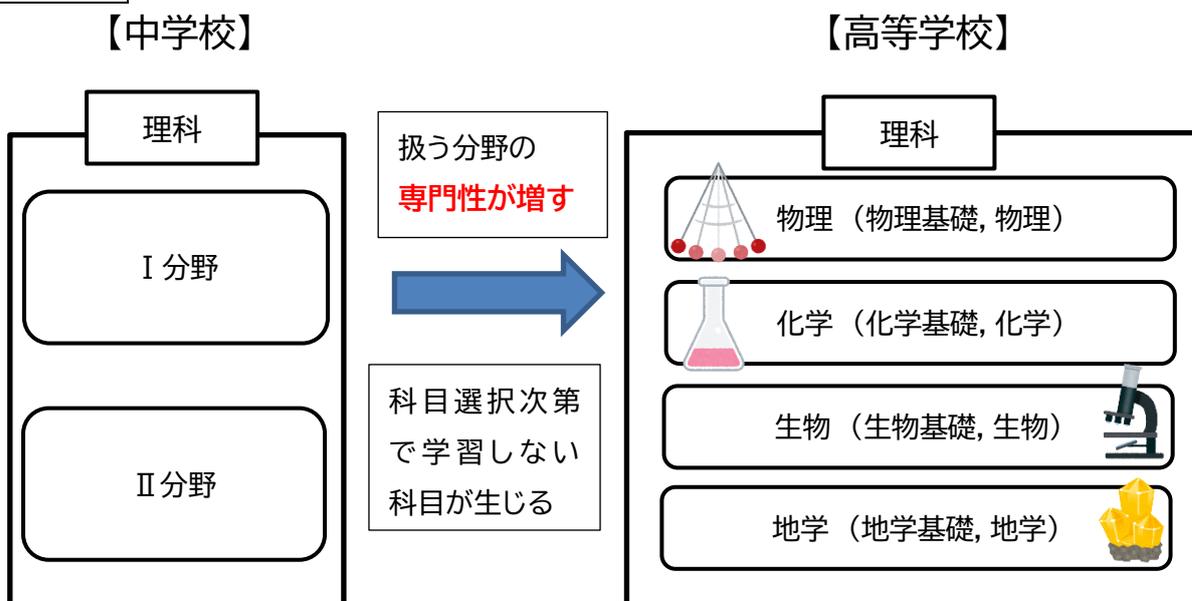
学期	一学期	二学期	三学期
単元	<p>「場合の数と確率」</p> <p>※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。</p>	<p>「場合の数と確率」</p> <p>「図形の性質」</p> <p>※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。</p>	<p>「図形の性質」</p> <p>※単元ごと、または内容のまとまりごとに確認テストを実施します。</p>

理 科

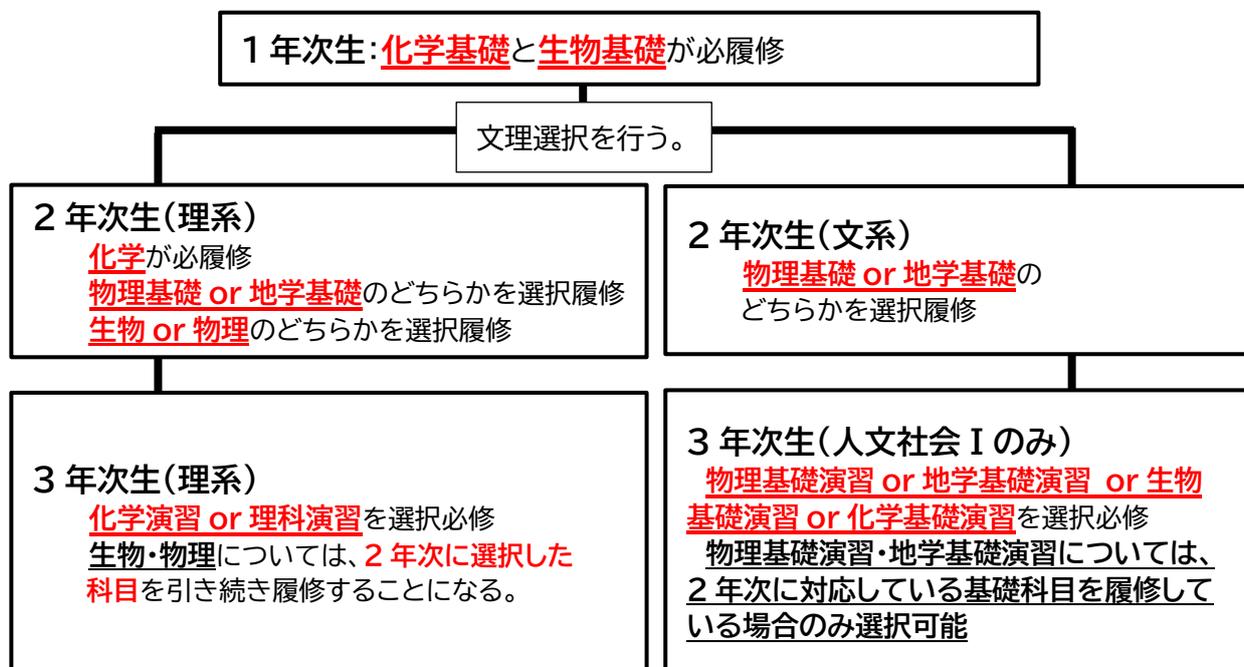
教科の目標

理科では小中学校で学習してきたように、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行う。これらを通して、**自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成**する。

教科の内容



本校のカリキュラム



学習の仕方

高等学校の理科では、文章や図・データを読み取りそこに何が示されているのかを**考えて理解する**必要があります。中学校に比べて授業展開も速くなり、暗記だけでは理解が難しい内容も増えてきます。そこで、まずは**授業時間を大切に取組んで下さい**。授業では主体的に学ぶ姿勢をもち、自分自身を高める努力を行って下さい。

年次	科 目	単位数
1	化学基礎	2
科目の目標・内容	<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。</p> <p>主に、化学と人間生活との関わり、物質の構成(物質を構成する粒子、化学結合など)、物質の変化とその利用(化学反応式と量的な変化、中和反応、酸化還元反応など)を学びます。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	新化学基礎(第一学習社)、改訂版 リード Light ノート(数研出版)	
教科からのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・お米1合で何粒あるでしょう？(粒子の数の観点) ・iPhoneの素材に興味ありますか？(化学と言えば材料系) 	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内取組・振り返り	○	○	○
レポート	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその構成要素 ・化学結合 ・物質と化学反応式 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質と化学反応式 ・酸と塩基の反応 	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応

年次	科 目	単位数
1	生物基礎	2
科目の目標・内容	<p>遺伝, エネルギー, 生物の体内環境の維持など生命維持に関する共通性や多様性, また生物を取り巻く生態系の構造などについて実験・観察を通して論理的に学ぶ。生物基礎を学ぶことで, 生命活動や生態系のバランスなどに関心を持ち, 自ら探求する力を身に付けてほしい。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	生物基礎 (数研出版), 改訂版 リード Light ノート(数研出版)	
教科からのアドバイス	<p>私たちが毎日生活するために実はさまざまなメカニズムが存在しています。さらに人は他の動物や自然とも大きく影響しあっています。生物基礎では, 動物や植物が生きていくための工夫や仕組みを学習し, それぞれの影響を理解することで, 生物全体に対しての探求心を高めてほしいと思います。</p>	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
授業内取組	○	○	○
レポート	○	○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 ・生物とエネルギー ○遺伝子とその働き ・遺伝情報と DNA ・遺伝情報とタンパク質の合成 	<ul style="list-style-type: none"> ○神経系と内分泌系 ・情報の伝達 ・体内環境の維持の仕組み ○免疫 ・免疫の働き 	<ul style="list-style-type: none"> ○植生と遷移 ○生態系とその保全 ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全

保健体育科

教科の目標

- (1) 実践を通して健康の増進と体力の向上を図り、個性や社会性を伸ばし、活気に満ちた高校生活を送る。
- (2) 運動技能を磨き、強健な心身を促すとともに、生涯にわたって計画的かつ継続的に運動ができる能力と態度を育てる。
- (3) 選択制授業による得意種目の技術の向上と、意欲的に取り組む態度の育成、生涯教育への基礎を固める。
- (4) 心身の健康や体力について知識を深め、安全に留意し、自他の生命を尊重する態度を育成する。

教科の内容

- (1) 体育の実技種目は、陸上競技・球技（バレーボール・バスケットボール・サッカー・ソフトボール、バドミントン、卓球等）・武道（剣道）・ダンス・体づくり運動です。実技種目に加え体育理論を実施します。
- (2) 1年次は共通種目を実施しますが、2年次からは選択制授業を実施します。
- (3) 保健は、「現代社会と健康」「安全な社会生活」「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の4単元を2年間（1・2年で履修）に週1時間の授業で進めます。

学習の仕方

〈 中学校との相違点 〉

- (1) 「体育」と「保健」は、それぞれ別に評価されます。
- (2) 規定時間以上の欠席時数や成績不良の場合、評定「1」（不認定）になります。
- (3) 2・3年次では選択授業（種目の選択）が展開されますが、詳細はそれぞれの学年の初めに行なうオリエンテーションで説明します。

〈 評価の観点及びその趣旨 〉

- (1) 知識及び技能
自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わい、体力を高めるための運動の仕方も身につける。生活における運動の意義や必要性、及び、運動の特性と合理的な仕方を理解する。また、保健分野では、個人生活及び社会生活における健康、安全について、基礎的な事項を理解し、知識を身につける。
- (2) 学びに向かう力・人間性
個人や集団の中で、自ら進んで計画を立て、常に意欲的に学習に取り組む。
- (3) 思考力・判断力・表現力
自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方や生活習慣について考え、工夫する。

〈 その他 〉

- (1) 体育の時間は、指定の体操服と体育館シューズを使用してください。
- (2) 授業時の災害は、独立行政法人 日本スポーツ振興センターから給付がなされます。
- (3) 授業中の体操服や眼鏡の破損は保障しません。
- (4) 各学年、最初の授業でオリエンテーションを行い、内容についての詳しい説明や注意をします。

年次	科 目	単位
1	体 育	2
科目の目標・内容	<p>【目標】 実践を通して健康の増進と体力の向上を図り、個性や社会性を伸ばし、活気に満ちた高校生活を送る。</p> <p>【内容】 実技種目は、陸上競技・球技(バレーボール・バスケットボール・サッカー・ソフトボール・バドミントン・卓球等)・武道(剣道)・体づくり運動です。実技種目に加え、体育理論を実施します。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	各種運動用具、体育活動ノート、教科書等	
教科からのアドバイス	運動やスポーツの楽しさや喜びを体験し、健康の保持増進や体力の向上を意識し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを形成してください。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
実技テスト・実技実践	○		
体育活動ノート		○	
授業態度、出欠等			○
観点の重み付け	40%	30%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>剣道、バレーボール、陸上競技、ソフトボール、バスケットボール、 バドミントン、卓球、サッカー、持久走、体づくり運動</p> <p>※講座によって実施時期や種目が異なります。</p> </div>		

年次	科 目	単位
1	保 健	1
科目の目標・内容	<p>【目標】 心身の健康について知識を深め、安全に留意し、自他の生命を尊重する態度を育成する。</p> <p>【内容】 「現代社会と健康」と「安全な社会生活」の単元を学習していきます。個人及び社会生活における健康安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための学習をします。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	各種運動用具、体育活動ノート、教科書等	
教科からのアドバイス	健康と安全に関する基礎・基本的な内容を体系的に学習し、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培ってください。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
保健ノート		○	○
課題レポート		○	
授業態度			○
観点の重み付け	40%	30%	30%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	1-1 健康の考え方と成り立ち から 1-11 薬物乱用と健康	1-12 精神疾患の特徴 から 1-19 健康に関する環境づくり	2-1 事故の現状と発生要因 から 2-6 心肺蘇生法

※順番が変わる可能性もあります。

外国語科（英語科）

英語は世界の共通語ともいえる言語です。英語学習を通して、様々な国々の文化や生活様式、ものの考え方などを学び、また、日本との違いも認識できます。それによって、私たちは、日本語や日本文化を再認識することにもなります。

世界の人々とのコミュニケーションを図り、お互いに理解を深めていくことが重要な今、私たち自身が英語力を高め、身近な事柄も、そして日本のこともしっかりと英語で伝達できるようになることが大切です。

また、大学入試は、ほとんどの場合、英語は必須科目です。あらゆる意味で大切な英語をこれから3年間しっかりと学習していきましょう。

教科の目標

正しい英語運用能力を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとることができるようになる。

教科の内容

中学校3年間の学習を基礎にして、更に発展した内容を扱い、学習量もずっと多くなります。次の2点に注目してください。

- (1) 授業の進度は速く、内容は豊富で高度である。
- (2) 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を重視し、英語でのコミュニケーションをとることを目標とする。

高校3年間の英語関連科目として、英語コミュニケーション、論理・表現、Presentation Skills、英語演習、英会話など選択科目を含め数多くあります。

それぞれの科目の特性はありますが、1年次では、中学校で学んだ内容がしっかりと身につけているという前提の上で、「基礎的な聞く力・話す力・読む力・書く力」を更に確実なものにしていきます。2年次、3年次へと進むにつれて、「読んで理解すること」「理解してもらえるように書くこと」も更に、重要視されるようになります。

「中学校では英語の成績が良かったのに…」という言葉を聞くことがありますが、中学校時の学習ペースでは、高校においては追いつかないことを理解してください。

学習の仕方（※予習復習方法は担当者に従うこと）

(1) 予習方法

① 音読

英語を声に出して読むことは、記憶を高める上でも、非常に有効です。教科書の本文を何度も音読してみましょう。

② 文章の意味を考える

大意をつかむために何度も読み、段落ごとに要旨をまとめ、続いて1文ごとに、意味を考えてみましょう。単語や熟語の意味は文章の要旨や大意を理解するために調べるのです。

③ 質問を整理しておく

質問を整理して授業に臨むことが、予習の最大の目的です。予習とは理解できないところを見つけてくることなのです。

(2) 復習方法

① 「復習・整理ノート」を作る

授業で学習した中で、特に重要な表現や文法項目は、ノートに整理しておきましょう。わからない問題があれば、必ず担当の先生に質問をして、あいまいなままで残さないことが大切です。

② 繰り返し音読する

教科書の文を、意味を確認しながら、その英文が自然に口から出てくるくらいになるまで、何度も何度も繰り返し読みましょう。

③ 例文を暗誦する

習った英文は、暗誦（あんしょう）しましょう。またそれを書けるように繰り返し練習しましょう。そうすれば、英会話の力もついてきます。教科書に出てくる例文には、口語的な表現も多いので正しく言えるように練習しましょう。単語の綴りも、何度も書いて手に覚えさせてしまいましょう。

授業に臨む態度

授業は皆さんが自ら学ぶためにあります。教えてもらうという受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に学習する態度が大切です。授業では皆さん一人ひとりが主役です。

☆暗誦で、18カ国語を独学でマスターした天才がいた！☆

伝説の街トロイの遺跡を発掘したことで有名なドイツ人、ハインリヒ・シュリーマンは、独学で18カ国語をマスターし、使いこなしたそうです。その彼の学習法こそが、毎日1～2時間、できるだけ大きな声を出して本を1冊音読し、暗誦することだったのです。

彼はいつも1冊の本を持ち歩き、暇があると少しでも暗記するように努めた結果、次第に記憶力を強めていったそうです。そしてついに18カ国語を使いこなせるようになつたのでした。

18カ国語は大変ですが、英語だけなら皆さんもきつものにできます。大切なのは、学習に対する熱意と根気です。

年次	科 目	単位数
1	英語コミュニケーション I	3
科目の目標・内容	(1) 日常的な会話や話題、また社会的な話題を聞いて、話者の意図や話の要点を理解できるようにする。 (2) 高校生の日常的なメールや話題、また社会的な話題を読んで、目的に応じて概要や要点を理解できるようにする。 (3) 興味や関心のある社会的な話題に関して、議論したり、話を整理して伝えたりできるようにする。 (4) 日常的な話題に関する経験や描写を、考えや気持ちを交えて書け、社会的話題に関して、相手にわかりやすいように考えを整理して、意見を展開して書けるようにする。	
履修条件	なし	
使用教材	Heartening English Communication I :授業中に教科書として使います。 Viewpoint Basic:長文を読む練習のため、週末課題として使います。 DataBase4800:日々の単語力の向上のため、小テストに使います。 EARTHRISE 総合英語:英文法の辞書として使います。	
教科からのアドバイス	英語の授業では、皆さんが英語を読んだり聞いたりする機会をたくさん作ります。皆さんには英語を読んだり聞いたりしたことから、どんなことを考えたのか、どんなことを感じたのかを、教室で話したり、書いたりしてほしいです。英語を通して、生徒と教員と一緒に学んでいきましょう。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査(長期休業明けテスト含む)	○	○	
パフォーマンステスト	○	○	○
小テスト	○		
観点の重み付け	50%	30%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業計画

学期	一学期	二学期	三学期
単元	Lesson 1~4 ⇒英文を読んだり聞いたりしながら、高校の授業に慣れていくようにします。	Lesson 5~8 ⇒読んだり聞いたりした英文を理解するだけでなく、自分の意見を言えるようにします。	Lesson 9~10 ⇒英文をもとに考えたことを、クラスメイトと話し合い、一緒に考えることができるようにします。

年次	科 目	単位数
1	論理・表現 I	2
科目の目標・内容	(1) 教科書に出てくるテーマを通して、物事への考えを深める。 (2) 例文やワークブックを通して、文法事項を定着させる。 (3) 学んだ表現を用いて、論理的な文章を書くことができるようにする。 (4) スピーチやディスカッション、ディベートなどの活動を通して、自分の主張を相手に効果的に伝えられるようにする。	
履修条件	なし	
使用教材	APPLAUSE English Logic and Expression I :授業中に教科書として使います。 APPLAUSE English Logic and Expression I Workbook : 学習した文法事項の定着を図るために使います。 EARTHRISE (アースライズ総合英語):英文法の辞書として使います。	
教科からのアドバイス	英文法を定着させることで、表現の幅を広げていきましょう。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査(長期休業明けテスト含む)	○	○	
パフォーマンステスト	○	○	○
小テスト	○		
観点の重み付け	50%	30%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業計画

学期	一学期	二学期	三学期
単元	Lesson 1~5 英語と日本語の違いを理解し、 英文を書いたり話したりしながら 英語の語順に慣れていきます。 【扱う文法事項】 動詞・基本文型、時制、助動詞、 受動態	Lesson 6~10 より英語らしい文章を書いたり話 したりするためのさまざまな表現を 身につけていきます。 【扱う文法事項】 比較、不定詞、動名詞、分詞	Lesson 11~14 1年間の総復習をしながら、より 英語らしい英語を使えるように 学習を進めます。 【扱う文法事項】 関係詞、仮定法

年次	科 目	単位数
1	Presentation Skills α	1
科目の目標・内容	(1) プレゼンテーション等、自分の意見を効果的に伝えるために必要なアウトプットの技能を身に付ける。 (2) 自分の意見を形成するために、読んだり、聞いたりして、様々な情報を理解、整理する。 (3) コミュニケーションを通して自分と他者・世界を繋げ、社会に積極的に関わろうとする態度を養う。	
履修条件	なし	
使用教材	APPLAUSE English Logic and Expression I :例文の音読練習などに使います。 その他、配布するプリント等	
教科からのアドバイス	英語で「聞きたい」「話したい」「自分を表現したい」という気持ちを実現するために、効果的に発表やコミュニケーションを行う技能を身に付けます。積極的に発言、練習しましょう！	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
プレゼンテーション(発表・準備)	○	○	○
リスニングテスト・ライティングテスト	○	○	
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業計画

学期	一学期	二学期	三学期
単元	自分の身の回りのことについて、準備をしたうえで、英語で発表を行います。 ●トピックの例 - Self-introduction - My hometown	自分の学校や日本の文化などについて、準備をしたうえで、英語で発表を行います。 ●トピックの例 - My school - My country, Japan	身近なことだけでなく、少し抽象的なことについて、準備をしたうえで、英語で発表を行います。 ●トピックの例 - Current issues in the world

家庭科

教科の目標

生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造するために、生活に必要な知識と技能の習得を通し、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成します。

教科の内容

中学校までの基礎的知識を踏まえながら、生活を営むために必要な、家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する知識と技能を実践的・体験的な学習活動を通して習得します。

また、家庭や地域の生活への関心を高め、よりよい生活の実現に向けて、身近な課題を主体的に捉え、具体的な実践を通して、課題の解決を目指します。

《 必修科目 》

全コース、1年次に「家庭基礎」2単位を履修します。



《 選択科目 》 3年次 人文社会科学専攻 2 (Humanities 2)のみ

「家庭基礎」を発展させる科目として、3年次に選択科目「フードデザイン」「保育基礎」「ソーイング」各2単位を設置しています。希望進路に基づいた選択および、科目内容に興味・関心があり、学習を深めたい人は選択してください。

学習の仕方

- ① 家庭や地域の生活に目を向けて多面的に考え、課題を発見しましょう。
- ② 授業で得た知識や技能を実践して自分のものにし、課題の解決を目指しましょう。
- ③ 新しく発生した課題については、論理的・科学的に考え、さらなる改善を目指しましょう。
- ④ 日々の生活で感じた疑問点は、インターネット等を活用し、調べる習慣をつけましょう。



まず授業時間を大切にし、自分の家庭生活がより暮らしやすくなるよう取り組んで下さい。



年次	科 目	単位数
1	家庭基礎	2
科目の目標・内容	<p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>	
履修条件	なし	
使用教材	「家庭基礎 持続可能な未来をつくる」「家庭科55デジタル+」	
教科からのアドバイス	学習活動を通して習得した知識及び技能を活用して、自分の生活における課題について考え、家庭や地域の生活で活かして下さい。	

評価機会	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
定期考査	○	○	
ワークシート		○	○
レポート(パフォーマンス課題)		○	○
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯の生活設計 ●青年期の自立と家族・家庭 ●子供の生活と保育 ●高齢期の生活と福祉 ●共生社会と福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ●食生活と健康 ●衣生活と健康 ●住生活と住環境 ●生活における経済の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ●消費行動と意思決定 ●持続可能なライフスタイルと環境 ●ホームプロジェクト

情報科

教科の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指します。



教科の内容

- (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め、技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めます。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養います。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養います。

学習の仕方

授業は、講義・演習・実習の3つで成り立っています。講義で学習したことを、問題演習で確実に理解し、定着させることが必要です。また、実習においては、基本的な操作法を理解・習得した上で、つぎつぎと新しい手法を学びます。日々の授業での積み重ねがとても大切です。



年次	科 目	単位数
1	情報 I	2
科目の目標・内容	<p>【目標】 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報社会の問題解決 ● コミュニケーションと情報デザイン ● コンピュータとプログラミング ● 情報通信ネットワークとデータの活用 	
履修条件	なし	
使用教材	「最新情報I」「最新情報I 学習ノート」	
教科からのアドバイス	情報科の基礎となる科目です。情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解し、情報と情報技術の問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得することを目的とします。そのため、教科書の内容を理解することだけでなく、基本的な実習操作も習得できるように取り組む必要があります。	

	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的
評価機会			
定期考査	○	○	
作品作成		○	○
言語活動		○	○
実技テスト	○	○	
観点の重み付け	40%	40%	20%

※なお、上記以外の評価機会がある場合は授業内で告知されます。また、観点の重み付けは変わることがあります。

年間授業予定

学期	一学期	二学期	三学期
単元	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報社会と私たち ● メディアとデザイン <p>期末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● システムとデジタル化 ● 問題解決とその方法 <p>期末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アルゴリズムとプログラミング ● ネットワークとセキュリティ <p>学年末考査</p>